



# ひかりのこ

## 2021年度 11月号

日本キリスト教団  
**名古屋新生教会** 教会学校だより  
 名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820  
 HP: <http://nagoya-shinsei.church/>

今年は夏に長雨、残暑かと思えば一気に冬が近づき、“ちいさい秋”を感じられないまま季節が変わっていきますね。一日での気温差も大きくなります。体調を整えて元気に過ごしましょう！

### 今月の礼拝 単元15: イスラエル王国

月日	週 題	聖書箇所	教会学校礼拝 (小5~中高生) 9:00 ~ 9:30	分級Ⅰ (小1~小4) 分級Ⅱ (小5~中高生) 9:35 ~ 9:55	こどもれいはい (幼児~小4) 10:00 ~ 10:20
11月7日	逃げるダビデ	サムエル記上 18-20章	武岡 基	ⅠⅡ合同 クリスマスに向けて (安達いづみ・武岡 基)	安達正樹牧師
11月14日 子ども祝福式	神にゆだねたダビデ	サムエル記上 24、26章	安達正樹牧師	ⅠⅡ合同 クリスマスに向けて (安達いづみ・武岡 基)	安達いづみ
11月21日 収穫感謝日	王となったダビデ	サムエル記上 31:1-7 サムエル記下 5:1-5、7章	林 小夜子	ⅠⅡ合同 クリスマスに向けて (安達いづみ・武岡 基)	武岡 基

### 単元16: 救い主の誕生

11月28日 アドベント	ザカリアの賛歌	ルカ福音書 1:5-25、57-80	武岡路実	ⅠⅡ合同 クリスマスに向けて (安達いづみ・武岡 基)	武岡路実
-----------------	---------	-----------------------	------	-----------------------------------	------

### 11月以降の教会学校

10月31日(日)から分級の時間でクリスマスに向けてのプログラムを始めました。クリスマスツリーに飾るオーナメントを作ります。コロナ感染対策として、他の人との距離を取り、換気を徹底し、空気清浄機と除菌機を保育園からお借りして稼働しています。

分級への参加は自由ですので、礼拝のみの出席でも構いません。

### 子ども祝福式 11月14日(日) 10:30~11:45

大人の礼拝の中で「子ども祝福式」を守ります。これは、教会に集う子どもたちの健やかな成長を教会員全体で祈ると共に、子どもたちが神さまからの祝福を受ける式です。

いつもの朝の礼拝もありますが、出席できる人は引き続き大人の礼拝へも出席してください。

大人の礼拝の後、園庭で「やきいも」を作って食べます。…次週の収穫感謝を前にして。

### 収穫感謝礼拝 11月21日(日) いつもどおりの教会学校礼拝・こどもれいはい

野菜や果物を持ち寄り、神さまからの恵みに感謝します。

「収穫感謝日」は11月第4日曜ですが、今年は第4週の28日にアドベントに入るので、1週前の第3日曜に行います。



教会学校クリスマス礼拝・祝会 12月12日(日) 13:30~15:00 (詳細は次月号にて)

金城学院高等学校キャラバン隊のみなさんによる人形劇が今年もやって来ます♪

今年は昨年と同じようにコロナ対策のため、いつも教会に来ているみなさんを対象に催します。

### 今月の聖句

ほめたたえよ、イスラエルの神である主を。主はその民を訪れて解放し、  
 われわれの救いの角を、僕ダビデの家から起こされた。(ルカ 1:68-69)

### 今月のさんびか♪

こどもさんびか 102 (わたしたちのたべるもの)

実りの秋。日本基督教団の暦で11月第4週の日曜日は「収穫感謝日」です(名古屋新生教会では今年第3週ですが)。この時期、キリスト教に限らず、さまざまな宗教で、また世界各地で、収穫を祝い感謝する行事やお祭りがあります。いずれも、収穫を祝うだけでなく、神さまに感謝する行事やお祭りです。今月のさんびか「わたしたちのたべるもの」は収穫感謝の賛美歌です。

作詞・作曲は川上盾(じゅん)牧師で、山口県生まれ京都府出身、現在は群馬県の前橋教会で牧会をされています。新島学園高校在学中は1学年後輩に布袋寅泰さん(元BOØWYのギタリスト、東京2020パラリンピック開会式に出演)が在籍されていたそうで、密かにライバル心を持っておられたそうです。いくつものあたらしいさんびかを生みだし、普段の礼拝でもギターを片手にわかりやすいメッセージをされています。『こどもさんびか改訂版』では、他にも94「ふしぎななぜが」、115「このはなのように」も彼の作品です。

収穫感謝礼拝のために作られた賛美歌です。神さまへの感謝(1節)だけでなく、生産者への感謝(2節)の思いが込められています。3節は金芝河さん(キム=ジハ 韓国の民衆詩人、キリスト者)の詩「飯は天です」から着想されたそうです。米や野菜が育つ様子、生産者の労苦、食べ物のわかちあい、それぞれの情景がやさしい言葉で表現されています。

なお、2節の「百姓」という言葉はマスコミ等では避けられていますが、本来は差別的な意味がないこと、農業従事者自身が誇りを持って自らを「百姓」と称している事例が多数あること、子どもにとって「おひやくしょうさん」は親しみやすいことから、文脈を考慮せずに「差別用語」とすることにはさまざまな立場から異論があります。現在では他人が「百姓」と呼び捨てにすることは失礼にあたりますが、呼び捨てにせず「お百姓さん」とすれば問題ないとされています。『こどもさんびか改訂版』では、親しみと敬意を表す呼びかけの言葉として扱っています。

8分音符(♪)が続き、2段目では付点8分音符と16分音符、また2段目最後に8分休符が入るところが少し難しいですが、歌い慣れてくるととてもリズムカルに歌えます。



### おたんじょうびおめでとう🎂

### 11月生まれのお友だち

#### ハロウィンってキリスト教?!

近頃は日本でもハロウィン(Halloween)が定着してきました。アメリカのテーマパークの影響だとも言われています。「アメリカのもの」=「キリスト教のもの」と思われがちですが、ハロウィンはキリスト教の影響を多少受けてはいるものの、実はキリスト教から発生した行事ではないのです。もともとは古代ケルト人(現代ではアイルランドやスコットランドなどにケルト系の民族が多い)の風習です。彼らは宗教的には自然崇拝で、この10月31日には収穫を感謝すると共に、先祖の霊が家族を訪ねてやって来る(日本で考えると「お盆」と考えられていました。その後、古代ローマ文化やキリスト教などヨーロッパの様々な文化の影響を受けました。キリスト教的には、カトリックでは11月1日が「諸聖人の日(古くは「万聖節」)」として大切な日であり、プロテスタントでは10月31日は「宗教改革記念日」であるので、いずれもキリスト教の教会ではこのハロウィンを受け入れることはしませんでした。アメリカへ移住した当初の人たちの多くはプロテスタント(ピューリタンなど)の人たちだったので、アメリカ移住が始まった頃にはアメリカでもハロウィンはありませんでした。19世紀にアイルランドやスコットランドからの移住が多くなりアメリカへもハロウィンが“輸出”され、その後、次第にアメリカ全土へと広まっていったのでした。今でもアメリカの厳格なキリスト教の地域や学校では「ハロウィンを行わないように」と通達が出ることもあるそうです。